

指定管理者の管理運営評価表

令和7年度

施設名	五泉市福祉会館	担当課名	健康福祉課
指定管理者名	社会福祉法人 五泉市社会福祉協議会		

区分	選定基準	評価項目	具体的業務要求水準	評価
公平性 透明性	市民の平等な利用が確保されること。	「市民の平等利用が確保されること。」に対する基本的考え方（理解度、取組姿勢など）	誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを推進することを使命とし、この使命を達成するための経営理念に基づき事業を展開している。	A
		平等利用を確保するための体制が確立されていたか（モニタリングなど）	市民の福祉への期待・ニーズを調査し、年1回開催する運営委員会で検討を行いサービスの向上を図っている。	A
		個人情報の保護、情報公開、広報の方法などが適切に図られていたか	個人情報取扱事業者としての義務を確実に果たすため、個人情報保護規程、プライバシーポリシーを策定し、情報管理の適正な措置を講じている。	A
		その他管理者の提案によるもの	—	—
効果性 効率性	事業計画書の内容が、指定施設の効用（設置目的）を最大限に発揮し、その管理の効率性が図られるものであること。	「事業計画書の内容が、対象施設の効用（設置目的）を最大限に発揮するものであること。」に対する基本的考え方（理解度、取組姿勢など）	福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会・経済・文化その他の分野の活動に参加できる福祉のまちづくりを推進する拠点として、施設の管理運営に努めている。	A
		業務の改善や工夫は十分であったか また、再委託する業務の内容及び委託先の妥当性はあったか	関係機関との会議を設けて、業務の改善や工夫をしている。再委託については、市の承認を行った上で実施している。	A
		利用者ニーズ、苦情などの把握方法及び対応方策は確立されていたか	館内に投書箱を設置し、意見の言える環境づくりに努め、寄せられた意見・回答などを広報誌や掲示板で公開している。	A

		利用者に対するサービス向上の方策が図られていたか	福祉サービスに関する苦情解決実施要綱、マニュアルを作成し、迅速な対応・情報公開に努めている。	B
		利用の促進、利用者増の方策が図られていたか	延べ利用件数及び利用者数は前年度と比較して増加している。	B
		サービスの質を確保するための方策が図られていたか	サービスの質、職員の資質向上を図るため、専門機関の外部研修、内部研修を行っている。	A
		施設の効用（設置目的）を最大限発揮できるスタッフの配置であったか	社会福祉士等の資格のある職員が配置されている。	A

区分	選定基準	評価項目	具体的業務要求水準	評価
効果性 効率性	事業計画書の内容が、指定施設の効用（設置目的）を最大限に発揮し、その管理の効率性が図られるものであること。	「事業計画書の内容が、管理経費の縮減が図られるものであること。」に対する基本的考え方（理解度、取組姿勢など）	管理経費の縮減を図り、五泉市福祉会館条例に基づいた運営を実施している。	B
		指定管理経費に妥当性があったか（サービスとコストのバランスなど）	管理委託業務を適切に実施している。	A
		収支計画に妥当性があったか	委託料を主とした予算の範囲内で事業を行っている。	A
		管理経費縮減の具体的方策が取られていたか	委託先の見直し等を検討し、管理経費の削減に努めている。	B
		利用料金を徴収する施設の場合、収入の増加を図るための方策が取られていたか	利用料は、五泉市福祉会館条例に基づく取扱いとし、料金設定については条例上の上限金額とする。	B
		その他管理者の提案によるもの	—	—
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う人員、資産その他の経営の規	「事業計画書に沿った管理を安定して行う人的能力、物的能力を有していること。」に対する基本的考え方（理解度、取組姿勢など）	福祉サービス提供事業者として事業の効率性、採算性を高めるとともに、自主財源確保に努力している。	A

	模及び能力を有していること。	当該公の施設に必要な管理能力を有していたか（組織及びスタッフの経歴、保有する資格、ノウハウ、専門的知識など）	統括管理責任者を置き、社会福祉士等の資格を持った職員を配置し事業を行っている。	A
		経営基盤の安定性が確保されていたか	収支決算が適正である。監事により法人の財産状況を監査している。	A
		スタッフ等の管理、監督体制が確立されていたか	施設運営にあたり、会長を委員長とした運営委員会を法人内に設置し、他の福祉関係団体の役員等を委嘱している。	A
		スタッフ等の人材育成の方策が確立されていたか	内部・外部研修等の参加を促進し、上級資格、免許等取得の奨励を行い職員の資質向上を図っている。	B
		リスクへの対応策が確立されていたか（防止策、非常時の対応マニュアル等）	防火管理者を設置し年2回（春・秋）の防火、避難訓練を行っている。危機管理マニュアルにより事故発生時の対応を速やかに行う。	A
		リスクへの対応能力は十分であったか（資金力、損害賠償能力など）	器物の破損に備えて、賠償責任保険に加入している。	A

区分	選定基準	評価項目	具体的業務要求水準	評価
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う人員、資産その他の経営の規模及び能力を有していること。	グループ応募の場合、グループの安定性は確保されていたか	—	—
		グループ応募の場合、役割分担及びリスク分担などの現実性及び妥当性が確保されていたか	—	—
		その他管理者の提案によるもの	—	—
貢献性	事業計画書の内容が、五泉市の振興・活性化に貢献できるものでありこと。	「事業計画書の内容が、五泉市の振興・活性化に貢献できるものであること。」に対する基本的考え方（理解度、取組姿勢など）	福祉活動の拠点として、市民の活動を支え、公益性の高い地域福祉活動を推進している。	B
		地元法人その他の団体の育成について、積極的であったか	ボランティアセンターによるボランティア活動の振興のため、ボランティア	B

			講座や住民啓発などの活動支援を行っている。 今後のボランティア人材の増加に繋がるボランティアサロンを開催された。	
		地元住民、高齢者、障害者等の雇用について、積極的であったか	地元住民を職員として採用している。	B
		地元での資材等の調達を積極的に行っていたか	必要なものは地元で調達している。	B
		その他管理者の提案によるもの	—	—

■総合評価（コメント）

- 1 福社会館の設置目的である「市民の健康増進と福祉の向上」を図るとともに各種福祉団体等の活動拠点として、会館の貸出業務をはじめ管理業務を実施している。また、平成 27 年 4 月から「五泉市くらしの支援センター」が設置され、生活困窮者からの相談窓口として定着している。
- 2 多様化する利用者ニーズに対応するため、利用者や外郭団体を対象としたアンケート調査（令和 6 年度実施）や会館内の投書箱設置などを通じて、利用者のニーズ把握に努めている。今後もさらに施設の利用効果を発揮できるように利用環境の整備に努めていただきたい。
- 3 会議室等の貸出業務では、利用実日数は前年度とほぼ同水準であった。延べ利用件数及び利用者数は前年度と比較すると増加している。令和 6 年度から新たに組み込んだボランティアサロンの一定の効果があつたと考えられ、今後の利用者増やボランティア振興につながるものと期待される。
 - ・利用実日数 R 7 年度 509 日（R 6 年度 527 日）
 - ・延べ利用件数 R 7 年度 2,057 件（R 6 年度 1,783 件）
 - ・延べ利用者数 R 7 年度 31,046 人（R 6 年度 27,613 人）
- 4 指定管理委託料の決算額は R 7 年度 16,024,742 円で、令和 6 年度 15,273,657 円と比べて若干の増加となった。エネルギー価格が高騰する状況において、今後も競争入札の定着と経費削減に対する職員の意識の醸成に努めていただきたい。
- 5 福社会館は平成 8 年の竣工から 30 年近く経過し、必要な修繕を行いながら機能を維持していかなければならない状況にある。令和 7 年度には会館照明 LED 化工事や冷却水ポンプ更新工事などを実施した。指定管理者の担当職員と市の担当職員との間で情報共有し、修繕が必要な箇所は計画的に対応するとともに、日常的な管理を適切に実施することにより、設備の不具合等を防止されるよう努めていただきたい。